

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 2 年目)

1. 研究課題

東アジア伝統医療文化の多角的考察

Study on various aspects of traditional medical culture in East Asia

2. 研究代表者氏名

大形徹

OHGATA Toru

3. 研究期間

2014 年 04 月 - 2017 年 03 月 (2 年度目)

4. 研究目的

東アジアの伝統医療は、鍼術、灸法、按摩マッサージ、骨接ぎの諸技法、方剤調合を中心とする薬物療法を中心として大いに発展し、道教、仏教、陰陽道における宗教的な呪法、内丹、瞑想等の身体技法、あるいは世俗に流行した長寿達成の養生術、丹薬、年中行事に組み込まれていく民間信仰等々と相互連環することで特有の文化複合体を構築してきた。そこで、伝統医療文化を総合的に研究するためのフレームワークとして、医学史家だけではなく、現代医薬学の専門家や臨床医、鍼灸師と思想、宗教、科学の諸分野で文献研究を推進する研究者を一堂に集めて、文理横断的な視点から多角的、複眼的な考察を繰り広げ、医療文化の総体に構造的把握を試み、理論的特質や可能性を探る。そして、日中韓三国の伝統医学や医学史研究の現状を踏まえて、統合医療、チーム医療といった今日的な動向のなかで鍼灸医療や漢方薬研究が歩むべき道を討議し、伝統医学の立場から医療文化の未来像を提言する。

The East Asian tradition of medicine, exemplified by techniques such as acupuncture, moxibustion, acupressure massage, and medical treatments such as herbal remedies, has been developed extensively. As a unique cultural complex, the tradition is closely connected to the transformative corporal techniques such as religious incantation, inner alchemy and meditation found in Taoism, Buddhism and Onmyodo. It is also associated with folk beliefs which are mixed with popular life-prolonging practices, elixirs and rituals. In order to create a comprehensive framework for examining the traditional medical culture, the research group brings together not only historians of medicine, but also medical practitioners from the pharmaceutical and clinical fields, acupuncturists, and textual scholars from philosophy, religion and science. It attempts to grasp the whole

picture of the medical cultural from a multidisciplinary perspective and to examine its features and possibilities. By reviewing the medical traditions and the current research of the medical history of Japan, China and Korea, discussions on the future of traditional East Asian medicine are made, both within the context of the current trends of medical practice such as integrative medicine and team medicine, as well as from the standpoint of traditional medicine itself.

5. 本年度の研究実施状況

東アジア伝統医療の全体像とその文化的特色を構造的に把握するために、医者、鍼灸師、薬剤師、医学史研究者に加えて諸領域の人文学研究者を結集して研究集会を開催し、『医心方』の会読と特別講演、研究発表を行った。昨年度末から取り組んでいる課題として、『医心方』『医方類聚』『傷寒論』を中心に古医書研究のあり方を議論し、それらの世界記憶遺産登録等の必要性を協議するとともに、現代医療にどのような提言が発信できるかについて検討を加えた。ゲストスピーカーには、北京中医薬大学の梁嶸教授、上海中医薬大学の張如青教授をはじめとする著名な医学史家を招聘した。年明けには、北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部、兵庫医科大学中医薬孔子学院と共催で国際ワークショップを企画し、医学史研究の泰斗である黄龍祥、小曾戸洋、真柳誠3氏を含む公開講演会を行い、100名を超える聴衆を集めた。また、3月には、国文学研究資料館主導共同研究プロジェクト（研究代表：陳捷教授）と合同で国際ワークショップを企画し、富士川文庫を中心とする古医書を調査し、附属図書館が推進しようとしているデータベース化事業の諸問題を討議し、さらに台湾、韓国の研究者を招いて東アジア科学史の特別講演会を開催した。

7. 本年度の研究実施内容

- 2015-06-07
 - 『胎産書』『十問』などの訳注を通して見えてきたもの 発表者 大形徹 大阪府立大学・教授
 - 『医心方』に魅せられて 発表者 槇佐知子 作家
- 2015-07-05
 - 臨床医に生きた曲直瀬玄朔とその周辺 発表者 葉山美知子 鎌倉早見美容芸術専門学校・非常勤
 - 漢方薬の症例呈示、および雲海士流について 発表者 松岡尚則 医師
 - 舌診の歴史について 発表者 梁嶸 北京中医薬大学・教授
- 2015-10-10
 - 『医心方』訓読作成プロジェクトに向けて（1） 発表者 伊藤裕水 京都大学文学研究科 D2
 - 発表者 島山奈緒子 明治国際医療大学・O.D.

- 知徳から行徳へ 発表者 遠藤次郎 東京理科大学薬学部・名誉教授
- 2015-11-03
 - 『医心方』訓読作成プロジェクトに向けて(2) 発表者 伊藤裕水 京都大学文学研究科・D2
 - 発表者 島山奈緒子 明治国際医療大学 O.D.
 - 『諸病源候論』の風病に関する『医心方』への影響を巡って 発表者 越智秀一 順天堂大学医史学研究室・研究生
 - 出土医学文献整理研究の回顧、現状と展望 発表者 張如青 上海中医薬大学中医文献研究所・教授
- 2016-01-09 伝統医療文化国際ワークショップ 2016-1「鍼灸道 未来への軌跡」
 - 『医心方』巻六選読 発表者 島山奈緒子 明治国際医療大学・O.D.
 - 古訓で読む『医心方』 発表者 伊藤裕水 京都大学文学研究科・D2
 - 司会 大形徹 大阪府立大学・教授
 - 開会挨拶 発表者 新家莊平 学校法人兵庫医科大学・理事長
 - 漢方研究 60 年 発表者 小曾戸洋 北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部・部長
 - 古典針灸学の世界—求真と求解 発表者 黄龍祥 中国中医科学院針灸研究所・研究員
 - コメンテーター 猪飼祥夫
 - 学術史研究における日本漢学と医学史 発表者 町泉寿郎 二松學舎大学・教授
 - 伝統医療の未来を拓く 発表者 真柳誠 茨城大学・教授
- 2016-02-07
 - 四川成都老官山の医学書概観 発表者 猪飼祥夫 猪飼鍼灸
 - 和漢診療学・あたらしい知の創造 発表者 寺澤捷年 千葉中央メディカルセンター和漢診療科・部長
- 2016-03-05 東アジア伝統医療文化ワークショップ 2016-3 (1日目) 東アジア伝統医療文化ワークショップ
 - 富士川文庫のデータベース化 発表者 赤澤久弥 京都大学附属図書館情報サービス課・課長補佐
 - 京大富士川文庫探訪記 発表者 長野仁 森ノ宮医療大学大学院・教授
 - 古医書データベース化構想の諸問題 発表者 武田時昌 京都大学人文科学研究所・教授
 - 司会 陳 捷 国文学研究資料館・教授
- 2016-03-06 「東アジアの技術的伝統への再照射」国際ワークショップ 2日目 東アジア科学技術史国際シンポジウム

- <第1セッション：伝統医療> 発表者
- 「古訓で読む『医心方』(3) 巻8 脚気形状第2 発表者 伊藤裕水 京都大学文学研究科・D2
- コメンテーター 石井行雄 北海道教育大学釧路校・准教授
- 中国按摩推拿医学の遡及的考察 発表者 大形徹／李強 大阪府立大学・教授／大阪物療大学・准教授
- <第2セッション：天文暦学> 発表者
- 文本的射影：文抄与西方曆算学的伝播 発表者 祝平一 台湾中央研究院歴史語言研究所・研究員
- コメンテーター 宮島一彦 同志社大学嘱託・講師、中之島科学研究所・嘱託研究員
- <第3セッション：朝鮮医学> 発表者
- 東アジアにおける許浚『東医宝鑑』の流布について 発表者 朴現圭 韓国順天郷大学・教授
- コメンテーター 吉田和裕 順天堂大学医学部医史学研究室・研究員
- 朝鮮医学史研究の概観と近年の動向 発表者 任正赫 朝鮮大学校・教授
- コメンテーター 安相佑 韓国韓医学研究院・責任研究員
- 総合討論「伝統科技典籍の近世的伝播」 司会 武田時昌 京都大学人文科学研究所・教授

8. 共同研究会に関連した公表実績

<公開講演会>

2016年1月9日 伝統医療文化国際ワークショップ 2016-1（北里大学白金キャンパス アネックス棟2階、北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部・学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院との共催）

2016年3月5-6日 「東アジアの技術的伝統への再照射」国際ワークショップ（国文学研究資料館主導共同研究プロジェクト（研究代表：陳捷教授）との合同研究集会）

<展示会>

2015年11月1-3日 京都医学史展 2015（第23回医療文化サロン展）（護王神社護王会館、京都半井家等と共催）

<雑誌記事>

2015年07月24日 京都新聞：武田時昌 「古医書の「記憶」を語り継ぐ」

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内		3 (1)			1	15 (5)			4
学内(法人内)	1	7 (5)	7 (5)	6 (4)	1 (1)	21 (16)	16 (11)	20 (14)	1 (1)
国立大学	6	7 (4)	1 (1)	3 (3)		19 (10)	1 (1)	5 (5)	
公立大学	3	6	1	3 (2)	1	21 (3)	1	4 (3)	4
私立大学	16	45 (13)	4	3 (2)	12 (9)	79 (36)	11 (7)	7 (2)	14 (5)
大学共同利用機関法人	3	4 (3)	3 (2)			4 (2)	3 (2)		
独立行政法人等公的研究機関									
民間機関	22	27 (10)	1			47 (24)	3 (1)		7 (2)
外国機関	10	12 (4)	9 (3)	1	1 (1)	10 (3)	9 (5)	1	
その他	14	39 (16)	3 (1)		2 (2)	72 (30)	3 (1)	1	7 (7)
計	75	150 (56)	29 (12)	16 (11)	18 (13)	288 (129)	47 (28)	38 (24)	37 (15)

※ () 内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	43 (43)
国際学術誌に掲載された論文数	5 (5)

※ () 内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
漢方の臨床	9	中神琴溪『生生堂傷寒約言』引書攷—医学思想の観点から—	<u>館野正美</u>
醫譚	2	アイヌにおける附子の調剤と瞑眩	<u>松岡尚則ほか</u>
日本中医学雑誌	1	医師国家試験における東洋医学・医史学と一般教養的知識	<u>松岡尚則ほか</u>
鍼灸 OSAKA	6	『針刺秘方口伝書』『新刺秘伝針書』の出現(上)—流儀書が示唆する匹地流(全105 穴系)の成立史—	<u>長野仁</u>
医道の日本	1	石坂流の押手を活かす—示中指押手の唯掌論的解釈とその臨床応用—	<u>長野仁</u>
日本大学人文科学研究紀要	1	『恵美寧固先生医方略説』攷—医学思想の観点から—	<u>館野正美</u>
中国語中国文化	1	田中必大『医事談』における吐方—江戸時代吐方の研究—	<u>館野正美</u>
薬史学雑誌	1	江戸末期の売薬「ホルトス」—その包装・効能書・剤形—掲載雑誌等の情報	<u>野尻佳与子</u>
人文学論集	2	中国按摩推拿医学の歴史	<u>李強・大形徹</u>
茶の湯文化学	1	書評 熊倉功夫・姚国伸「榮西『喫茶養生記の研究』」	<u>岩間眞知子</u>
曲直瀬道三と近世日本医療社会	1	曲直瀬道三と茶	<u>岩間眞知子</u>
喫茶の歴史 茶薬同源をさぐる	0	喫茶の歴史 茶薬同源をさぐる	<u>岩間眞知子</u>
《長沙馬王堆漢墓簡帛集成》修訂国際研討會 會議手冊	1	〈胎産書〉之“始”	<u>大形徹</u>
漢字学研究	1	字説「胎」と「始」	<u>大形徹</u>

理由			
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
第 64 回 全日本鍼灸学会、ふくしま大会 抄録集	1	中国伝統医学における灸火の文献的検討	<u>家本旬二・大形徹</u>
関西医療大学紀要	1	伝統医療文化における形身観と「美」の研究—鍼灸学の肉体と精神—	<u>王財源</u>
Health	1	Does east meet West? -The association between oriental tongue inspection and western clinical assays of white blood cell subsets	<u>Watanabe M, Kainuma E, Tomiyama C, Zaigen Oh, Koshizawa J, Nagano G</u>

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

13. 次年度の研究実施計画

本年度は、昨年度の議論を受け継いで、伝統医療文化の構造的把握を試み、遡及的考察を繰り広げる。そして、伝統医学の本質を探りつつ、現代医療の枠組みの拡充に向けた討議を行う。取り上げようとする主要な考察対象は、以下の5つの事項であり、国内外の専門家、臨床医を国内外から招聘し、班員の研究発表を交えながら、多角的、横断的な討論を繰り広げる。

- (1)古医書の源流：遡及的考察とデータベース化
- (2)癒やしの技法：巫術から医術への社会史的考察
- (3)東アジア近世医療文化の形成：中国医学の伝播と自国化
- (4)欧化政策の歪みと漢方医学の復興：現代鍼灸の創生、中医学、韓医学との比較
- (5)統合医療への道：現代医療における漢方の役割と課題

現在、企画している研究集会は、以下の通りである。4月中旬に客員教授として来訪中の安相佑教授（韓国韓医学研究院責任研究員）に加えて、韓国から研究者を5-7名招聘し、『医方類聚』総合研究プロジェクトや韓医学の現状をめぐる国際ワークショップを開催する。5月中旬に上海で開催予定の出土医学文献関連の学会に班長、副班長を含む班員を派遣し、簡牘研究を推進する中国人研究グループとの研究交流を図る。また、附属図書館で推進する富士川文庫のデジタル化構想に参画し、国文学資料館の陳捷教授が主宰する研究グループと合同で古医書データベース化事業を推進する。また、6月初旬には兵庫医科大学中医

薬孔子学院との共催イベントを実施する。さらに、後半は、最終年度の締めくくりとして中国、台湾、マカオの医学史研究者を招聘した国際研究集会を企画している。

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 5 回 国内出張旅費 (延べ 10 人)	支出予定額 (250 千円)
	一般旅費	国内出張旅費 (延べ 人)	支出予定額 ()
海外旅費	渡航旅費	海外出張旅費 (延べ 人)	支出予定額 ()
	招聘旅費	招待人数 (延べ 9 人)	支出予定額 (650 千円)
謝金 (講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額 (140 千円)
消耗品等経費		医療文化史サロン展会場費 100,000 医療文化史サロン展パネルボード等 60,000	支出予定額 (160 千円)
その他			支出予定額 ()
合計			1,200 千円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

11 月初旬に京都医学史研究会、京都半井家と連携して医療文化史サロン展 2016 を開催し、『医心方』関連資料の展示を通して伝統医学の歴史と現代的意義をアピールする。研究会終了時に参加者に研究論文を募り、論文集を刊行したいと考えている。